

岩手県金ヶ崎町の和光開拓は、県の南西部に位置している。奥羽山系の山麓にあり、標高140mほどで、冬には積雪が1mを超える雪国だ。

土壌は強酸性の火山灰で、作物の生育には向かず、畑を眺めては呆然とするばかりだった。県の補助事業で土壌改良資材を導入してから、何とかこの地に生涯を託すことができるようになった。

48年、満蒙開拓少年義勇軍から帰国した人々を中心に、50戸ほどが入植した。

和光開拓の由来は、満蒙開拓時代の理想でもあった「^{てんちあい}天和^{あいわ}相和して^{きよっこう}旭光を放つ」村づくりを通して、人相和して光輝く開拓地となるように、との思いが込められている。

ここは傾斜地が多く、田畑は限られており、全員酪農で生きていこうと決意し、53年に乳牛の一頭飼いからスタートした。この年は冷害に見舞われたこともあり、酪農専業化へ拍車がかかった。

当初は酪農への知識が乏しく、事故も多かったが、北海道などの先進地から講師を呼ぶなど、あらゆる努力を払い、98年には飼養頭数が2000頭に迫るようになった。

また、日本一の開拓むらを目指し、93年度豊かなむらづくり全国コンクールで、見事天皇杯の栄誉に輝いた。地域の力を合わせた酪農経営の取り組みと、美しい農村景観づくりに力を入れ、生産と生活が一体となった地域づくりが評価された。

83年に整備されたパイオニア公園に、35周年の開拓記念碑が建ち、73年に建てられた拓土碑が隣に移築された。開拓碑は、和（玉）を人々の手が支えあっている形を表しており、「人相和して光り輝く」と刻まれている。

和光 03-381-3

①調査日 平成28年9月7日

②所在 胆沢郡金ヶ崎町

③地区の沿革 23年9月7名の先遣隊が入植し、24年までに50戸、28年に6戸が入植した。

④設置年月日 平成5年5月

⑤設置者 入植者

⑥碑文（表面） 和光開拓碑

相和して光輝く 和光開拓はこの地から始まった

昭和二十三年九月十四日 山形県 出身者の故丸山新治以下七人が先遣隊として入植開拓の鋤を下ろした それまでは熊笹が生い茂り 樹齢四・五十年を数える鬱蒼とした松林であった 開拓本部は駒ヶ岳国有林第百七十二林班のこの場所に設けられ 後に和光開拓農業協同組合の事務所となった 昭和二十四年までに五十戸が入植 二十八年に六戸が加わって五十六戸の集落ができた 開墾はすべて 人の力であった 松林を切り 熊笹を焼き払い ひと鋤ひと鋤振り下ろして耕し 今日のを光を創り上げたのである

1戸あたりの配分面積は約四.五ヘクタール 土地代は 十アール三十円二十四銭 合わせて千三百九十一円四銭であった 昭和三十七年には沢伝いに水田を拓き飯米の自給が出来るようになった 酪農は昭和二十七年から始まった 昭和四十年代に入り 後継者が経営に携わるようになって 飛躍的な発展を遂げ岩手県下でも一・二を争う酪農郷となった

平成四年九月十四日 入植四十五周年を迎えるに当たりこの地に繰り広げられた壮大な開拓村建設の歴史をこの碑に刻んだ すでに故人になられた十三人の先駆者の冥福を祈り この里にわれらの夢見るユートピアが実現することを願うものである

撰文 松浦健一

平成五年五月吉日建立

和光開拓入植四十五周年記念実行委員会

委員長 鈴木 栄一 委員一同

⑦碑文（裏面） 入植者57名の個人名

⑧現在の状況 地域内で管理されている。